

自由のともくび

JIYU NO TOMOSHIBI

VOL. 94

2023 March

- 高知近代史研究会第112回研究会報告
- 企画展「牧野富太郎と土佐の自由民権」
- 『板垣退助伝記資料集』全18巻の刊行を終えて
- 第23回社会科自由研究作品展報告
- 学校教育連携プログラムの御案内



■リレーエッセイ

公文 豪氏、江村栄一記念 「自由民権研究特別賞」受賞

一九六〇～二〇〇〇年代にかけて自由民権運動史研究に多くの功績を残し、また一九八〇年代に全国的規模で展開した「自由民権百年運動」の事務局長をも務めた法政大学名誉教授故 江村栄一氏。その多大な業績を讃え、自由民権運動研究の深化・発展をめざして設立された「江村栄一記念会」が、令和四年度「自由民権研究特別賞」の受賞者として公文豪氏を選定しました。

この「自由民権研究特別賞」は、自由民権運動史に関する研究や研究に資する資料集の刊行などで特に顕著な業績を残した研究者等を対象とした賞です。公文氏が単独で編集した『板垣退助伝記資料集』が、今後の板垣研究の土台になると高く評価されたことから、この度の受賞となりました。

板垣は近代史における重要人物でありながら、本人が記した資料はほとんど伝わっておらず、その研究は困難とされています。そこで、公文氏は板垣再評価を目指し、彼に関する資料を約二〇年かけて丹念に収集されました。その結果、各巻約六〇〇～七〇〇頁、全一八巻の膨大な資料集が完成しました。

当館としても、公文氏から『板垣退助伝記資料集』刊行のお話をいただき、開館三〇周年の節目に発行できたことは大変意義深いことでした。そしてこのような素晴らしい賞を受賞された公文氏に、心よりお喜び申し上げます。

『板垣退助伝記資料集』は、販売のほか当館二階図書室で全巻閲覧が可能です。この資料集を少しでも多くの方に活用いただけることを願ってやみません。

イタドリの商品化をめぐる

グローカルヒストリー

岩佐 光広

(高知大学人文社会科学部准教授)



今回の報告の主役は、高知県の人たちには馴染み深い「イタドリ」です。これまで様々な分野で論じられてきた先行研究を「商品化」をキーワードに読み解きながら、イタドリをめぐるグローカルヒストリーを概観しました。

イタドリは、タデ科の多年生の植物です。雄花と雌花を別々の個体につける「雌雄(しゆう)異株(いしゆ)」で、「種子繁殖」をしますが、根の栄養器官の断片が繁殖体となり個体数を増やす「栄養繁殖」も可能です。また、イタドリの根は太く強韌でかつ生育が早いので、がけ崩れなどのかく乱を受けた場所にいち早く出現する「先駆植物」でもあります。

イタドリは、東アジアが原産で、日本でも全国各地に生えています。そのため日本では古くから様々な利用されてきました。もともと一般的なのは食用です。特に、子どもがおやつ代わりに若芽を生で食べることは、全国的に見られたことです。

くわえて、イタドリの方言での呼び名は実に多様で、その数は六百種にわたるといわれます。『野草雑記』のなかで柳田国男は、イタドリのように子どもが主に関わる植物は様々な呼び名が付く一方で、商品となって遠くに運ばれると呼称は統一される傾

向にあると指摘しています。この指摘を敷衍すれば、日本においてイタドリは、各地域でドメスティック(家庭的)に利用されるものであり、広く「商品化」されるような植物ではなかった、それゆえ多様な呼び名があったといえます。

しかし、視野を広げてみると、イタドリは商品化された歴史を持つていたことがわかります。実はイタドリは、園芸用植物として商品化され、海を渡っていたのです。

イタドリをヨーロッパに持ち込んだのは、シーボルトでした。江戸後期、精力的に動植物の調査を行っていたシーボルトはヨーロッパに帰国後、イタドリを新種として学会で発表するとともに、一八四七年には園芸植物としてイタドリの通信販売も行いました。するとイタドリは、成長しやすく丈夫で、かつそのエキゾチックな雰囲気が高く評価され、欧米諸国で広く取引されるようになりました。

一八五〇年には、イギリスのキュー王立植物園にイタドリを含む日本の植物群が届けられ、イタドリの株は、イギリス国内の園芸業者に分配されました。そのイタドリは、「ワイルドガーデン」と呼ばれる自然風の庭園スタイルが流行していた当時のイ

ギリスの園芸家のあいだで「見栄えがする植物」として好評を博し、各地の庭園に植えられました。しかし、第一次世界大戦後、イギリスの国力低下に伴い多くの庭園は解体されるなかで、イタドリも道端や川原に投棄されたりしました。投棄されたイタドリは栄養繁殖をし、繁殖地を広げ「野良化」していきました。

同様の事態はイギリスだけでなく他の欧米諸国でも起こっており、現在イタドリは、極めて有害な侵略的外来種とみなされています。

その一方で現在の日本では、高知県をはじめイタドリの栽培と商品化が進められています。そうしたなかで、イタドリと人の関わり合いがどのように変化していくのか、今後も高知をフィールドとしてイタドリの調査を続けていきたいと思っています。





企画展 牧野富太郎と 土佐の自由民権

期間：二〇二三年(令和五年)五月二〇日(土)～二〇二三年(日)
会場：二階特別展示室 ※常設展企画展共通観覧券が必要)
※九月一日(金)は展示替えのため休室

高知県高岡郡佐川村(現・佐川町)出身の世界的な植物学者である牧野富太郎は、昨年生誕一六〇年を迎えた。今春は牧野を主人公のモデルとしたNHK朝の連続テレビ小説「らんまん」が放映されるなど、まさに牧野の生涯が注目を集めている。

今企画展は、そんな牧野の生涯のうち土佐で過ごした青春時代―それはまさに自由民権運動の時代であった―を取り上げ、植物学者・牧野博士を育んだ佐川の風土や人々、自由民権運動と牧野との関わりを紹介するものである。

Ⅰ 牧野少年と土佐

牧野は佐川村で雑貨屋兼酒屋を営む裕福な商家の家で生まれる。一〇歳の頃から寺子屋に通い、やがて学制が定まると牧野の就学の際は名教館として小学校へと移った。

名教館は土佐藩政時代に佐川を治



東京上野公園地第二内国勸業博覧会
開場之図(当館蔵)



福沢諭吉訳『世界国尽』
(個人蔵・当館寄託)

めていた家老・深尾家によって設けられた家臣教育のための学校で、民営となった明治初期には、福沢諭吉の『世界国尽』や川本幸民の『気海観瀾広義』などを教科書に、世界史や地理、物理などの先進的な内容を教えていた。また、高知市より招いた二人の教授によって英語を用いた授業も行われていたといい、牧野はここで初めて「日進月歩」の学問に触れたと語っている。

Ⅱ 自由民権運動と青春時代

明治一四年に日本初の政党である自由党が結成された。当時の土佐の民権熱は並々ならぬものであったというが、牧野も自由黨員として懇親会に参加、幾度か演壇にも上っている。

また、同時期には佐川で「公正社」をはじめとする学術研究会が組織されており、牧野は指導者的な立場で人々を牽引していった。



南山社碑

Ⅲ コラム 植物採集と新聞紙

牧野が残した遺品の中に、植物標本づくりに利用された膨大な量の新聞紙がある。その中には戦火や災害によって失われ現存が確認されていなかったものも多く、時代の空白を埋める歴史資料として高い価値を有している。

このコーナーでは、初出資料を中心に、牧野の功績の「副産物」である新聞資料を展示する。



旧青山文庫
(須崎警察署佐川分署)

Ⅳ 土佐の自由民権運動

明治一七年頃、牧野は自由党を脱退し学問のため上京する。しかし、その後も土佐では三大事件建白運動や選挙大干渉など自由民権運動史に残る出来事が相次いだ。

牧野と同時代を生き、自由民権運動に携わった土佐の人々を、佐川町出身者を中心に紹介する。

参加無料 申込不要

記念講演会

「民権・佐川・牧野」

日時：五月二七日(土)
一四時～一五時半

会場：一階民権ホール
講師：筒井秀一
(高知市立自由民権記念館長)

本講演会はZOOMでもお聴きいただけます。
申込は下記QRコードより。
※御来場の方は申込不要

<https://00m.in/sputC>

『板垣退助伝記資料集』

全十八巻の刊行を終えて

公文豪

板垣退助八十三年の生涯は、大きく四つの時代に分けることができる。

①は生誕、青少年期の人間形成、上士勤王派としての活動、戊辰戦争を経て高知藩制改革の時期まで。②は明治新政府への出仕と下野、帝国議会開設にいたる自由民権運動指導者としての活動。③は初期帝国議会における政党指導、伊藤・山縣内閣との提携、隈板内閣の成立と崩壊、政界引退まで。④は社会改良運動と社会政策論展開の時代である。

板垣は常々「自分の生涯はあたかも東海道を歩く駕籠かきのようなもので、たいがいのは者は宿々で相棒が代わるが、自分はそれと同様で、戊辰の倒幕、自由党組織、社会問題など、天下の志士と交わってきたが、常にその時々相手が変わっている」と言っていた。その言葉通り、最晩年まで交際を続けた者は多々たるもので、竹内綱、林有造、くらいだと宇田友猪が述懐している。中岡慎太郎、西郷隆盛、片岡健吉、植木枝盛、中江兆民、星亨らとは早くに幽明界を異にし、谷干城、河野広中らとは政治的に袂を分かった。

波乱に満ちた板垣の生涯は、激動の幕末から明治・大正まで、近代国家成立

の歴史と共にあり、その活動・思想の全容を把握し、正当な評価を下すのは相当困難である。何よりも、板垣自身が「天下の志士」と交わった記録を全く残さなかったために、毀誉褒貶相半ばする評価のまま今日に至った。誹謗中傷に類する批判に対しても、反駁する材料を欠き、弁護人もなく断罪され続ける気の毒な状態のまままで放置されてきたと言ってもよからう。

かつて小西四郎東京大学教授は、昭和五十七（一九八二）年発行の『土佐史談』六一号に寄稿した「板垣研究覚書」の中で、板垣資料蒐集の困難性について次のように書いている。

「〔板垣の〕伝記を書いて見ようと思いつてから、既に二十五年以上にもなるが、まだそれを果さないでいる」、「種々調査を進めると、史料が極めて少ないことに驚いたのである。板垣自身が書いたものがほとんど残っていないのである。日記は全くないし、さらに板垣から関係者に送った手紙の類も、数えるほどしかない（略）。凡そあれほど著名な政治家で、こんなにまで自筆史料の少ない人は珍しい」、「こうなると先づ板垣の周辺の人々或いは関係者を追求しながら、史料を蒐集しなければ

ならない。例えば片岡健吉や佐佐木高行の日記を見ると、谷干城の遺稿を探ることである。しかしこのことは無限大にも広がるような仕事であり、根気のいる仕事である。さらに板垣の行動に即応しながら、当時の新聞や雑誌なども見て行かなければならないが、これもきりの無い仕事といえる。また主として自由民権期に関するものであるが政府側の探索報告なども追求しなければならぬ。それやこれやで板垣関係史料を遺漏なく集めることは、容易なことではない、殊に板垣は長寿であり、彼の全生涯にわたつての史料を求めることは容易なことではない。私はこれにとりくんでいるが、それは牛歩であり、日暮れて道遠しの思いがする」。

結局、小西教授は宿願を果たすことなく、平成八（一九九六）年に逝去された。

私が板垣伝記執筆を志して資料蒐集に着手したのは、平成十五（二〇〇三）年である。この年、『自由民権運動と女性』で高知出版学術賞を受賞した大木基子高知短大教授の授賞式の日、その目次立てを見せてご意見をいただいたことを覚えている。

着手してみれば小西教授が書いていた通りで、板垣の自筆史料は皆無に近いため、周辺の自筆史料は皆無に近行、谷干城、木戸孝允、片岡健吉、植木枝盛、河野広中等の日記や遺稿、当時の新聞、雑誌から関連記事を追いかけるしかなかった。最終的には用いた同時代資料百六十五点、パソコンへの入力文字

数約八百三十五万字、四百字詰め原稿用紙にして約二万八百七十五枚、A5版で約二万二千頁、全十八巻の『資料集』となり、これをもとに私にとつての板垣伝記として附録「板垣退助年譜」をまとめ、すべての作業を投了したのである。もつとも、これで完璧かといえば、決してそうではない。小西教授が言うように、当時の新聞や雑誌などからデータを蒐集し尽くすのは単独では到底不可能で、まさしく「きりの無い仕事」であるためだ。あとは後進に委ねるしかない。

私がこの『資料集』編纂に費やした歳月は、足かけ十八年にのぼる。この間、高知市立自由民権記念館の新聞・雑誌等の複製版購入が充実し、国立国会図書館等が所蔵する資料のネット公開が進んで、地方においても中央と変わらぬほどの研究条件が整ってきたことはすこぶる幸運なことだった。活用させていただいた関係機関には心から感謝したい。本書によって板垣再評価が行われ、近代史研究に資することができればこれに勝るものはない。

なお蛇足ながら、この仕事は全く個人的動機に基づくもので、一部の誤解なきにしもあらずだが、膨大なコピー費用をはじめとする経費は完全自費であることを付記しておきたい。これについては、『明治政史』の編者・指原安三、『明治事物起源』の編者・石井研堂の仕事を範としてきた在野研究者として、ささやかな矜持にほかならないからである。

第二回 江村栄一記念「自由民権研究特別賞」受賞

『板垣退助伝記資料集』

(3セット/全18巻)各巻概要

6巻1セット/各税込18,000円/全セット購入者には『板垣退助年譜・補遺』をお付けします。
購入についてはメール(top@i-minken.jp)またはFAX(088-831-3306)にて
お問い合わせください。



第1回配本 ※在庫僅少			本文
1巻	幕末編	家系と生誕、吉田東洋暗殺、中岡慎太郎との意気投合、薩土武力討伐の密約、大政奉還、土佐藩軍制改革と別撰組	454頁
2巻	明治元年～明治5年	東山道総督府参謀、戊辰戦争、版籍奉還、高知藩制改革、人民平均の理、廃藩置県、岩倉遣欧使節団と留守政府	632頁
3巻	明治6年～明治10年	明治六年の政変、民撰議院設立の建言、立志社創立、大阪会議、立志社建白、河野広中來高	663頁
4巻	明治11年～明治13年	高知大獄の判決、民権結社・女性参政権、高知県会開設、国会期成同盟創立、集会条例制定、甲州遊説	516頁
5巻	明治14年～明治15年	東北遊説、北海道開拓使官有物払下事件、明治十四年の政変、自由党結成、岐阜の兇変、板垣洋行問題	710頁
6巻	明治16年～明治20年	板垣・後藤帰朝、朝鮮改革運動、自由党解党、徳富猪一郎來高、板垣辞爵事件、三大事件建白運動と保安条例	635頁
第2回配本			本文
7巻	明治21年～明治22年	大同団結運動、大日本帝国憲法の発布、後藤入閣と大同団結運動の分裂	607頁
8巻	明治23年	愛国公党、庚寅倶楽部結成(三派合同)、立憲自由党の成立、第一回衆議院議員選挙、帝国議会開設	597頁
9巻	明治24年	土佐派の裏切り、自由新聞社の内紛、大津事件、東北・北海道遊説、板垣・大隈の連携と第二期帝国議会、衆議院解散	635頁
10巻	明治25年～明治26年10月	選挙大干渉、植木枝盛逝去、板垣・大隈両伯告発事件	682頁
11巻	明治26年11月～明治28年	衆議院議長星亨の議会除名・自由党の苦難、日清戦争と三国干渉、伊藤内閣との連携	724頁
12巻	明治29年～明治30年	板垣退助内務大臣就任、三陸大海嘯、河野広中脱党、後藤象二郎逝去、東海北信遊説、第三次伊藤内閣	666頁
第3回配本			本文
13巻	明治31年	憲政党創立(自由・進歩両党合同)、隈板内閣の成立と崩壊、憲政党分裂、山縣内閣との提携	633頁
14巻	明治32年～明治35年6月	四国・九州遊説、政界引退、立憲政友会創立・憲政党解党大会、星亨暗殺、高知政界の紛擾	742頁
15巻	明治35年7月～明治38年8月	加藤高明高知選挙区当選受諾と交渉顛末の公表、海南倶楽部の結成、『友愛』発刊、片岡健吉逝去、日露戦争	715頁
16巻	明治38年9月～明治42年	社会改良会結成、一代華族論争、土陽新聞社譲渡、国技館の誕生、伊藤博文暗殺	721頁
17巻	明治43年～明治45年	最後の帰高、『自由党史』刊行、日韓併合、谷干城逝去、『社会政策』発刊、土陽新聞社横領事件	722頁
18巻	大正篇	太刀山会、台湾同化会、社会改良論の展開、戸主選挙法の提唱、板垣退助逝去(附録)「立国の大本」「神と人道」「国会論ノ始末」	737頁

期間 令和5年1月21日(土)～2月26日(日)

共催 高知市教育研究会社会科部会

特別賞受賞のみなさん



第23回 社会科自由研究作品展特別賞表彰式



表彰式アトラクション



高知県立丸の内高等学校音楽科の学生による演奏がありました

来場者アンケートより

すばらしい
作品ばかりで
驚きました。

子どもたちの意欲と
熱意に感動しました。

「なるほど」と思う
ようなことを書いていて、
勉強になった。
(小学生)

この作品展は、当館開館一〇周年を記念して始まり、今年で二三回目となります。今回も「歴史」「人物」「地理・文化」など全八分野に数々の力作が出品されました。

応募点数は、小学校二八校、中学校一校から、合計一三五点。見ごたえのある作品が集まりました。その中から一八点を自由民権記念館特別賞に選出しました。

一月二十八日(土)には表彰式を開催し、自由民権記念館特別賞受賞者やその家族の方に参加いただきました。

なお、展示期間中は約一、二五〇名の方に閲覧いただきました。どうもありがとうございました。



展示室入口



作品を見る来館者

自由民権記念館特別賞 18作品

分野	学校	学年	氏名	作品名
環境	高知大学教育学部附属小学校	2	鈴木 結仁	3Rでプレゼント大作せん
人物	第四小学校	3	片山 悠嗣	坂本龍馬クイズ
地域・福祉	神田小学校	3	遠山 怜花	みづかにあるてんじ
地域・福祉	高知大学教育学部附属小学校	3	三好 湖春	色いろなマークを調べてみた!
総合	高知小学校	3	廣田 樹	電車や駅で地しんが起きたらどうする
地理・文化	横内小学校	3	西森 史葉	土佐べんについて知ろう
体験	初月小学校	3	田中 咲羽	高知を代表する土佐和紙
産業・交通	小高坂小学校	4	山崎 実央	三菱って何屋さん?
地理・文化	小高坂小学校	4	前田 紗彩	あいぞめの研究
歴史	横浜新町小学校	4	北岡 琢功実	もし、高知城が戦国時代にあったら?
環境	高知小学校	5	沼田 京香	目指そう!食品ロスさくげん
産業・交通	小高坂小学校	5	徳平 健佑	その野菜、本当に高知産? ~本当の高知野菜を食べよう。~
総合	横浜新町小学校	5	滝本 理仁	「高知県防災アプリ」を活用しよう!
人物	介良小学校	6	山崎 さくら	植物学者牧野富太郎について
地域・福祉	高知大学教育学部附属小学校	6	山口 心寧	いのちの贈り物~臓器移植~
地理・文化	高須小学校	6	目良 夏南	むかし五台山は島だった!?
体験	横浜新町小学校	6	有光 彩瑛	平和な世界に~自分ができること~
歴史	介良潮見台小学校	6	梶原 叶大	悲運の武将 源希義 僕が生まれ育った介良に住んでいた

学校教育連携プログラムの御案内

当館で行っている学校教育連携プログラムを御案内します。
小・中・高等学校での歴史学習に、ぜひ高知市立自由民権記念館を御活用ください。

● 出前授業

当館学芸員が学校に伺います。
自由民権運動や土佐の近代史に関することなど、授業内容・時間は可能な限り学校側の御要望に沿って対応いたしますので、お気軽にお問い合わせください。

～例えばこんな事例がありました～

- ・「校区の歴史について教えてほしい」
- ・「新聞の葬式について授業で話してほしい」
- ・「濱口雄幸についてわかりやすく話してほしい」



● 副読本『板垣退助BOOK』電子公開



高知市内の小学生に、郷土の偉人である板垣退助についてより詳しく学んでもらうことを目的として平成30年度に作成した小学6年生向け副読本『板垣退助ブック』ですが、令和4年度より提供方法を冊子配布からインターネット上での公開へと切り替えました。どなたでも無料で御覧いただけます。

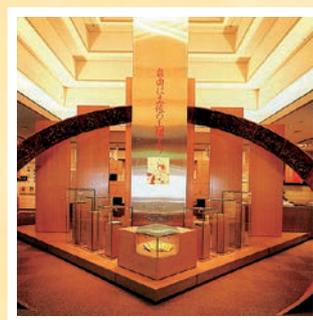
教員対象の解説書も併せて公開しておりますので、授業や日々の家庭学習等に御活用ください。

ダウンロードは下記URLから▽
<https://www.city.kochi.kochi.jp/soshiki/90/itagaki-book.html>
または「高知市 板垣退助ブック」で検索

● 団体観覧 高校生以下観覧無料

明治維新から明治25年の選挙大干渉までを資料とパネルで御紹介する当館常設展示室を、ワークシートを利用して御案内し、自由民権運動の歴史と高知県出身者の動きについて分かりやすくお話しします。

また、子ども向け学習映像「自由民権って何？」の視聴や、民権すごろく、明治時代の錦絵・地図のパズルなどのメニューもあります。



この他、キャリア学習への講師派遣や授業で使用する資料画像の提供など、御要望・御質問があれば気軽にお問い合わせください!

出版物のお知らせ 『板垣退助伝記資料集』好評販売中

第1巻～第6巻セット、第7巻～第12巻セット、第13巻～第18巻セット
(各税込18,000円)

郷土の偉人であり、自由民権運動の指導者である板垣退助に関する史料を年代順に収録した資料集です。本資料集は、単に板垣個人の行動記録をまとめたものではなく、板垣の広範囲にわたる活動や知られざる哲学と思想に迫る構成になっています。



当館開館30周年記念出版として、令和2年度から刊行が始まり令和4年度秋の刊行をもって、全18巻が完了しました。

購入・お問合せ：高知市立自由民権記念館

TEL/088-831-3336 FAX/088-831-3306

□高知市立自由民権記念館 紀要について

これまで冊子での発行、有料頒布を行ってきた高知市立自由民権記念館紀要ですが第27号よりHP上での電子公開とし、どなたでも無料で御覧いただけるようになります。バックナンバーについてはこれまでどおり書籍販売のみとなっております。紀要の閲覧は高知市民権・文化財課HPから

□第2展示室コーナー展示 「楠瀬喜多ってどんな人？」

2023(令和5)年4月より「民権ばあさん」こと楠瀬喜多を御紹介するコーナー展示を実施します。

行事予定 (春・夏)

予定は変更になる場合があります。詳しくは自由民権記念館までお問い合わせください。
◆は当館内自由民権記念館友の会事務局にお問い合わせください。

開催中～5月7日(日)

■企画展

「春野地域名望家の記録—細川義昌と吉良順吉—」

会場：2階特別展示室

※常設展・企画展共通観覧券が必要

4月29日(土・祝) 15:00～17:00

申込不要

◆自由民権記念館友の会総会・記念講演会

「逸話で語る板垣退助」

講師：公文豪氏(自由民権運動研究者・友の会会員)

会場：1階民権ホール

※総会 13:30～15:00

5月20日(土)～12月3日(日)

■企画展

「牧野富太郎と土佐の自由民権」

会場：2階特別展示室

※常設展・企画展共通観覧券が必要

※5月27日(土)、9月3日(日)には

それぞれ16時から展示解説を行います。

※9月1日(金)は展示替えのため休室

5月27日(土) 14:00～15:30

申込不要

■企画展「牧野富太郎と土佐の自由民権」記念講演会

高知近代史研究会総会・第113回研究会

「民権・佐川・牧野」

講師：筒井秀一(高知市立自由民権記念館長)

会場：1階民権ホール

※総会 13:30～13:50

7月下旬 10:00～12:00(予定)

要申込

■夏休み子ども歴史教室

小中学生が、館内で自由民権運動に関するクイズラリーに挑戦
※学校を通じて申込受付

9月3日(日) 14:00～15:30

申込不要

■高知近代史研究会第114回研究会

「選挙と識字」

講師：汲田美砂(高知市立自由民権記念館学芸員)

会場：1階民権ホール

ワークショップ

午前の部 10:00～12:00

午後の部 14:00～16:00

要電話
予約

定員：各回10名

会場：1階研修室(4月のみ民権ホール)

参加費：500円

※午前・午後とも参加者対象の展示クイズラリーあり

4月15日(土)

「パタパタメモ帳を作ろう！」

5月5日(金・祝)

「ミニこいのぼりを作ろう！」

6月17日(土)

「レジンでかき氷を作ろう！」

7月15日(土)・8月19日(土)

「万華鏡を作ろう！」

9月18日(月・祝)

「ブックカバーを作ろう！」